



なっとくんの

なるほどなっとくニュース



Community Museum「地域の宝・学校の宝」学校を中心とした地域の教育的環境の活用をめざして

※なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。↑



山陽小野田市の窯業と旦の皿山

山陽小野田市



山陽小野田市は、須恵器、セメント、硫酸瓶といった窯業が古くから盛んでした。その原材料の粘土は、主に宇部夾炭層の粘土層にあるもので、酸化鉄が多く含まれており、耐酸性に富むことが特徴です。

有帆川の川岸にある旦地域はかつて、小皿など家庭用品を焼く製陶所があったことから「皿山」と呼ばれていました。



宇部夾炭層 (泥岩、砂岩、凝灰岩、石炭)



1891年に設立された日本舎密製造会社(現日産化学株式会社)の小野田工場で硫酸を運搬するための容器を必要としたことから、硫酸瓶の製造が一大地場産業となりました。



硫酸はとても危険な薬品なので、瓶にひびが入っていないか検査していました。検査に通らなかった瓶は、「瓶がき」として石垣のかわりに利用されました。

しかし、1950年頃から、硫酸の輸送容器がポリエチレン容器やタンクローリーに変わり、次第に製陶所は減っていきました。



188号にも関連した内容を掲載しています。



現在、山陽小野田市では、窯により発展した歴史を伝承しつつ、窯業の1つであるガラス文化の発信に力を入れています。自分の地域の産業について、その歴史を調べ、その産業を発展させるためのアイデアを考えてみよう。

